

編集室より

◇4月の声をきくと、野に山に春を感じて参ります。彼岸が過ぎて却って寒さのぶり返した気候の不順も桜がほころび始めると日に日に暖さを増して来ました。官庁も学校も農協も新年度のスタートで気分も新たに昭和39年度の新事業に着手したことでしょう。お宅の経営も新年度に備えて着々準備を整えて来ていたことと思いますが、いよいよ実施に移す時が来ました。思い切った計画と着実な実行、そして気長に続ける努力が成功へのカギです。

◇どこでも今、行詰っているのは、経営の拡大をしたい気持があっても、現状で拡大をして果して収益の増加と結びつくかということです。机上の空論では乳牛10頭飼えば7ヶタ酪農になると教えられても果して10頭を飼う基盤をどうして作るか、誰も教えてくれません。農業の現状は乳牛5頭飼うのが限度と大抵の調査結果がそう出ます。

◇勝山農業改良普及所で昨年度1年がかりで調べた久世町の経営設計分析結果によると、搾乳牛5頭、子牛1頭の経営に必要な条件は飼料作が可能な水田裏作を110a、牧野採草地20aが必要と出ました。この条件で水槽、煙草、乳牛の複合経営を営んでも年間所得は82万円と、満足出来るものにはならないという診断です。

◇問題は曲りなりにもこれらの条件が備わっている人はよいにしても、この条件を満たし得ない人はどうしたらよいかということです。これには限られた条件で不足な条件を補なっていく工夫が必要となりましょう。110aの裏作面積がないならば55aで牧草収量を2倍にする工夫をすれば110aと同じ面積をもっているのと同じ条件を整えることが出来ます。又あちこちに散在している未利用の牧野を利用できるように工夫すれば悪条件の整備はまだ可能の余地を残しています。現状では6頭以上の乳牛は飼えないという大きな壁をいかにして打破るか、これは県北の一地域だけの問題ではなく県下全体に共通の問題です。零細経営を切り捨てることは安易ですが、

零細経営を活かして現実の壁を切り抜けることに知恵をしぼるのにやぶさかであってはならないことです。

◇全国をまたにかけて仕事をしている或る業者がこんなことをいっていました。「大阪の人は金をかけて儲かる方法を考えるが岡山の人には金をかけずに儲かる方法を考える、だから岡山の農業は大きく発展する要素が限られるのではなかろうか」と。少しい過ぎの面はあるが総体的にそういう印象をもたれていることは我々としても反省して見る必要があります。岡山県下でも、発展する農業の芽となっている地域ではやはりかなりの思い切った金をかけ、労力と知恵をしぼっていることを思えば、他力本願の経営意識は通用しない時代になっていることを知るべきでしょう。

◇本誌も新年度を迎え、農業の壁をどう切り抜けるかに焦点を合せて読者と共に考えていきたいと思っています。今号では1万羽養鶏に成功している人々の、その苦心談と成功の秘訣を語る座談会を掲載しました。技術記事も皆さまの要望にこたえて頁をふやし壁を切り抜ける人々がどうして農業に活路を見出しているか？農村の息吹きを紹介する記事に力を入れております。編集につきご意見をお待ち致しております。今年度のお宅の経営が一層発展の実をあげられることを祈ります。